

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年7月31日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103946号
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿七丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	平成25年6月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年7月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『今日1日が最後の1日』という気持ちで、1日でも長く楽しいひとときを過ごして頂けるよう、日々検討し続けている。  
また家族にも施設の中での生活がよく分かって頂けるよう、日々の様子を写真やビデオを細かく残し、家族に閲覧していただいたり配布も行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市郊外の閑静な住宅街に立地しており、周囲に公民館・福祉館・銀行・病院・スーパー・バス停もある利便性に恵まれた環境の中に通所介護事業所と託児所を併設している。  
開設当初から自治会に加入し、地域行事の敬老会等への参加で利用者も地域の一員として交流がなされている。また、併設する託児所の送迎で若い世代の地域住民が日常的に訪れる環境にあり開放的である。庭で遊ぶ子供たちを目を細くして見守る利用者の姿も日常的に見られる光景である。  
食事の献立は管理栄養士の指導のもとに作成されており、栄養バランスのいい家庭的な料理となっている。また、ときには、回転すしやソーメン流し、喫茶店、利用者の希望に沿った個別支援の外出などにも出かけ「食」を楽しんでいる。  
「終の棲家としての利用まで多目的に対応する」との終末期におけるホームの方針を重要事項説明書に明記して、主治医・看護師・家族・職員がチームとなって本人・家族の意向に沿った看取り支援にも取り組んでいる。  
職員の自己研鑽意欲が高く、働きながら学ぶ姿勢が更なる資格へのチャレンジへと結びつき、現在、介護福祉士10名、ケアマネジャー1名、看護師1名と知識と経験の豊富な職員が多数確保されて質の高いサービスの提供がなされている。利用者安心して生活できる家として職員は家族のような気持ちで接することを心がけ「その人らしい生き方」を支援している事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の見直しは毎年行い、毎朝朝礼で理念に基づく運営方針を盛り込んだ『行動手帳』を唱和し、互いに意識づけあい理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。	法人共通の理念と地域密着型サービスとしての意義を踏まえたグループホーム独自の理念を作成している。グループホーム独自の理念は毎年全職員で見直しの検討会を行い、更なる質の向上に向けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会の行事へは、職員だけでなく可能な限り入居者も一緒に参加し、地域住民との交流を図っている。また当初の行事（敬老会等）にも、地域ボランティアで参加いただく等、交流は順調である。	開設時より町内会に加入し、総会・清掃活動への積極的な参加や回覧板を利用してホーム便りを地域の方々に閲覧してもらうなどホームへの理解と交流に努めている。利用者もまた、地域行事の敬老会に招待があり、地域の一員として交流がなされている。小学生の体験学習やサマーボランティアの受け入れ、校区の文化祭、運動会への参加や見学等もあり、子ども達との交流も含め、地域との良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の話し合いに参加したり、日常的に地域住民と交流する事で、情報収集しやすい状況づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対しては年2回アンケート調査を実施しているが、回答しやすいように無記名回答とし、返信用封筒を同封している。頂いた意見については、家族会や運営推進会議にて話し合い、改善を図っている。	地域住民代表、消防団員、家族の参加で定期的に開催している。できるだけ多数の家族の参加が得られるように年2回の家族会時に運営推進会議を行うこともある。ホームの状況報告やアンケート調査結果の報告等を行い、出席者からの多岐にわたる意見をサービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内がある場合は、積極的に参加している。またホームページ等を閲覧し、サービスの向上に努めている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、生活保護者の担当者とも連携を密に図っている。毎年、介護相談員の受け入れも行って。法人は併設の託児所もあることから「かごしま子育て応援企業」として鹿児島県に登録している	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の廃止の研修をしている。施錠は日中はしていないが、20時以降は防犯の為施錠している。	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置して定期的に勉強会を行っている。また、日常の業務でも疑問点が生じたら都度話し合う機会を設けて禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように努めている。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活が送れるように支援している。帰宅願望の強い利用者にはドライブや家族の協力をもらうなどして対処している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内定期研修にて高齢者虐待関連法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内定期研修にて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者が必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点が無くなり、納得を得た上で契約に関する行為を進めるよう留意している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者と対話する機会も設けるようこころがけ、自然なかたちで利用者の思いを引き出せるよう努めている。	日常の面会時や電話連絡時、年2回の家族会時や2か月ごとの家族交流会時に意見、要望を聞き出すように努めている。また、第三者委員の設置と年2回家族向けアンケートも実施して、家族が意見要望を表す機会を瀬回に設けている。出された意見・要望については職員間で話し合っってサービスの質の向上と運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員が会社を書面で評価する機会、そして面談にて意見を聞く機会を設けている。	毎朝夕の申し送りと必要に応じて都度のミーティング、全員参加の毎月のミーティング等で意見交換や勉強会などを行っている。出された職員の意見・提案は可能な限り運営に反映させるようにしている。また、資格取得に向けた支援も法人として積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場へ足を運び、状況を把握している。職員とのコミュニケーションもとれている。給与は資格だけを考慮して決めるのではなく、職員本人の努力や実績、勤務状況、他職員からの評価を考慮したうえで決める体制にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社が立てている年間の計画を基に、毎月定期研修と勉強会が行われている。新入職者には、主任が中心となって育成する体制をとっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員との食事の機会を設けるなどして、意見や要望を伝えたり、相談しやすい環境づくりを心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人にできるだけ納得してもらえたうえで入居してもらえよう、本人の不安や要望は良く聞くようにし受け止める努力をしている。また他の介護保険サービスの説明をするように心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等についても上記同様、納得してもらった上で利用してもらえよう十分な話し合いに心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人にとって今一番必要な支援の方法を共に考えている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の好きなこと、得意な事を引き出し、長年の技や知恵などを教わるなどして、本人の人格を尊重しながら過ごすよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を知ってもらえるように『ショコラ便り』において、定期的にお知らせしたり、行事には家族も参加頂くことで、本人と家族の良い関係が保てるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などに行事の案内（外出レクリエーション、誕生会）をして、できるだけ馴染みのある方々に参加して頂けるよう提案している。	地域出身の利用者は地域行事（敬老会・文化祭・運動会）に参加して馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。また、希望に応じて隣接するデイサービス利用者との関わりや入居前からの馴染みの美容室・お墓参りなど関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や好み等に配慮して、心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報提供や、又その後も必要な方には継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『その方らしい生き方』を中心に考え、介護者の自己満足にならないようなケアに心がけている。	日常の会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族や前施設等から情報を収集し、状況把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送りや定期的にミーティングを行うなかで、利用者の状態を話し合い、今後のより良いケアについて検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を重視し、又担当者会議の中でも職員も意見を出しながら、入居者本意の介護計画の作成に心がけている。	利用者及び家族の生活に対する意向を聞いて個々に応じた個別の介護計画を作成している。状況に変化があれば随時見直しを行い、変化がなくても6カ月毎に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては個別ファイルにより、状態の変化を継続的に利用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通所介護施設を備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者・地域消防施設隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。地域のボランティアによってイベント等に参加してもらい、地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。通院は家族の同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。協力医療機関とは緊急時における適切な指示・対応などで24時間連携が図られている。訪問看護事業所との契約により看護師による健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者全員について把握できるような勤務体制、また他介護職員からの相談に乗れるような環境作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との連携を図り、緊急時すぐ受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも緊急時の対応を共有している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明して終末期における家族の思いや意向も聞いている。入居後は利用者の身体状況に応じて方向性を共有し、本人・家族の意向に沿った最大限の支援に取り組んでいる。これまでに主治医・看護師・家族・職員がチームとなって看取りも行っており「終の棲家としての利用まで多目的に対応する」とのホームの方針が重要事項説明書にも明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を施設内で自主的に行っている。また消防署が開催している普通救命講習を職員全員が受講できるよう、勤務調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練においては、様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。地域の方々とは日ごろからお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。緊急連絡網に登録されている消防団員もおり、地元消防団との協力関係が築かれている。ホームセキュリティとの契約もされており、通報装置・スプリンクラーも設置されて備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人権を尊重する言葉かけや対応を行っている。	定期的な法人内研修とミーティング時や日常の業務の中で機会を捉えては話をすることもあり、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をして思いを引き出せるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望やペースに合わせながら、職員本位のケアにならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族と美容院へ行く方もいたり、ホームへの出張カットを利用したりと、本人及び家族の希望に沿って支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の誕生日にはもちろん、好みの特別メニュー日も設けている。利用者のできること・出来ない事を見極めながらも、食事について興味を持ってもらえるよう可能な限り調理に加わって貰えるようにしている。	管理栄養士の指導のもとに献立が作成されており、栄養バランスの摂れた家庭的な食事である。身体状況によるミキサー食でもムース状にしたソフト食を提供するなど食事形態を工夫している。託児所の子どもたちとおやつ作りや個別の外出、ソーメン流し・回転すし・喫茶店に出かけるなど趣向を凝らして「食」が楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にカロリー計算されており、摂取量の記録と月1回の体重測定を実施している。また利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯科衛生士の職員により口腔指導を行い、一人ひとりにあったケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、現状によりオムツの検討も行い、本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、排せつの自立に向けた支援を行っている。日中、布パンツで自立している利用者も多く、職員のさりげない声かけ誘導で維持できるように支援している。毎月、リハビリパンツ等の使用料金を排せつ状況をチェックして可能な限り軽減できるように取り組み、入居後に改善された	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や量を記録し、排便の状況把握をしている。水分摂取の促しや散歩の実施（雨天時は室内にて歩行）や腹部マッサージ、またアルカリイオン水の飲用や食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力薬に頼らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴は決まっているが、その他の日でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、足浴・清拭も実施している。	基本的には週3日を目安としているが身体状況や個々の希望に応じて柔軟に入浴の支援を行っている。保湿効果と温泉気分が味わえるように入浴剤を使用している。また、就寝前に足浴を行っており、利用者に好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝が習慣の利用者にはゆっくりしていただけるような空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きを利用者ごとの薬箱に添付している。また薬の内容が変わった時にはその都度申し送りし、利用者の変化に職員全員で気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片付け、洗濯や掃除など、それぞれの役割がほぼ決まっている。音楽や裁縫などの趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは、気分転換や体力作りを兼ねて、一緒に外に出る機会を出来るだけ多く作りようにしている。年間行事計画を立て、外出レクに利用者や家族と出かけられるように支援している。	日常的には周辺の散歩やドライブ、敷地内では託児所の子ども達が遊ぶ姿を見守りながらの外気浴を楽しんでいる。他にも、個別の外食や外出、季節の花見・地域行事見学・初詣・ソーメン流し・動物園などに出かけることもありホームに閉じこもらないように、可能な限り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に本人・家族と話し合い、それぞれの入居者の力量、希望に応じて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物があった時に本人からお電話をするようにしたり、また季節のお便り（暑中見舞いや年賀状等）を書く機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシーに配慮することはもちろん、利用者に季節を感じてもらえるような壁飾りの作成や植物の配置を行っている。</p>	<p>共用空間は広く明るく開放感がある造りである。台所もオープンで食事の準備やにおいなどは生活感を感じさせてくれる。トイレと浴室には暖簾が設置されており、プライバシーにも配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和気あいあいと過ごせる様にホールのテーブルやソファの位置に配慮し利用者が思い思いに過ごせる様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に従来使っていた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらったり、希望があれば畳敷きの部屋に工夫するなど、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>テレビ・ソファ・仏壇・使い慣れたダンス・面会の家族と食事をするテーブルとイスなどが持ち込まれている。各居室、洗面台が備え付けで整容の自立にも結び付いている。また、本人の希望により畳敷きも可能でこれまでの生活スタイルが継続されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>『安全で使いやすい』を念頭において、トイレや浴室に手すりを付けている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない